

あいあいあい
I eye 愛

2023年

12月号



10月23日「せっけん工房わ・は・わ」開所式 みんなの輪の皆さんとあいコープの理事ら

「ねがい」を重ね合わせた「せっけん工房わ・は・わ」

理事 佐藤 あきな

秋晴れの10月23日、大郷町にある社会福祉法人みんなの輪「わ・は・わ味明（みあけ）敷地内に完成した「せっけん工房わ・は・わ」の開所式が行われました。これまでの「リサイクル石けんさいかち」は、新たにプライベートブランド「めぐる石けんさいかち」として生まれ変わりました。

カンパが寄せられたことなど、幸運と情熱と多くの努力で、石けん工場建設が実現しました。

「さいかち」は、これまで青葉区落合にある「わ・は・わ広瀬」で製造されていましたが、施設を新たに建設する際の手続きの中で、工場の操業が許可されない土地であったことが判明し、製造継続の道が断られました。その知らせを理事会で受けた時には衝撃が走り、あいコープのせっけん運動のシンボルを失くしてはいけなく、みんなの輪にさいかちの継続を希望する意思を伝えました。

開所式では480万円余りの寄付金（ジョイケア基金より）と、組合員のカンパ金約48万円、そして工房の看板をみんなの輪に贈呈しました。みんなの輪の仲野谷理事長の挨拶の中で、わ・は・わ広瀬の職員からも「場所を変えてでも石けんを作り続けて欲しい、みんなの輪から石けん製造を失くしてはいけない」との声があったとお聞きし、あいコープだけではなく、さいかちに携わるみんなの想いが一つになったことで新せっけん工房の建設に至ることが出来たのだと感じました。

使用済み食用油を利用してみんなの輪の利用者さんが石けん製造に携わり、それを組合員が使用することで、利用者さんの工賃と生きがいになります。また環境負荷の少ない石けんの排水は海に流れ、また雨となつて私たちのもとへ還ってきます。石けんを作る人も使う人も、そして環境にも、全てに幸せがめぐるように。「めぐる石けんさいかち」という商品名には、そんな願いが込められています。

製造場所や費用など沢山の課題に直面しましたが、みんなの輪と協力しながら探した結果、味明にある旧倉庫を改築し利用できること、予算内で建設可能な建設会社と出会えたこと、また総代会でジョイケア拠出金からの寄付が承認され、更に組合員から建設支援金

CONTENTS

- | | | | | | |
|------------|----|----------------|------|---------------------|----|
| ▶農産体験活動報告① | …2 | ▶Wa！わぁ祭り盛大に開催 | …4-5 | ▶原発アンケート結果を東北電力（株）へ | …7 |
| ▶農産体験活動報告② | …3 | ▶魚プロ認証会が行われました | …6 | ▶生産者さんにあいに行こう ATJの巻 | …8 |

2023年度 産地交流&たねプロ

～猛暑を乗り越え 収穫の秋～

10/14

七郷トライ田んぼ・稲刈り

無農薬のお米作りに挑戦した七郷トライ田んぼは、今年5回目の秋を迎えました。大勢のスタッフが除草に入つてやつと収穫できた1年目、雑草の大発生に泣いた2年目、手押しの除草機導入で楽になった昨年と今年。今年の収量は玄米にして210kg！昨年より30kg多い収穫でした。

田植えの時に抱っこされていた赤ちゃんや稲刈りの時はよちよち歩きになり、田んぼに入るとちやきちやき作業を始める皆さんを見てると、この田んぼで実るものとお米だけではないんだと気づかされます。大郷のように何十年も続く無農薬田んぼになることを願つてやみません。



黄金色に実った田んぼで気持ちの良い汗を流しました。

産地より

今年で5年目の七郷トライ田んぼに多くの組合員の皆様に参加して頂きありがとうございました。今年は記録的な猛暑でどうなるか心配しておりましたが無事に黄金の穂が穂り、みなさんに無農薬米を収穫してもらいほっとしました。美味しかったかな？今年の田植えでは過去一番の面積を手植え作業して頂き皆さんの意気込みにビックリしました。毎年人気のむかつち先生の生き物調べでは子供たちが泥だらけで楽しんでいる姿にほっこりし、改めて田んぼの生態の勉強になりました。トライ田んぼを通して米作りの大変さや収穫の喜びを分かち合うことができ、生産者として楽しい一年でした。また来年も一緒に楽しみましょう！

(七郷みづば会 阿部哲也さん)

10/28・11/19

種まきプロジェクト・収穫

産地より

種(たね)の大切さを感じてもらおうと6年前から開催しているたねまきプロジェクト。5月の種まきから始まり、厳しい暑さの中の除草、土寄せ作業を経て迎えた収穫の日。茶色に枯れた鞘を摘み取り、割つて小豆を取り出します。中から出てくるツヤツヤの小豆に自然と笑顔がこぼれます。岩手大納言は4.2kg、丹波大納言は12kgの収穫量となり、今年も無事に種をつなぐことができました。例年になく雑草の繁茂とウィルス性の病気に悩まされ、実った量も少なく粒も小さめでしたが、厳しい環境でも生き残つて実を結んだ小豆たちはきつと来年も元気に育ってくれることでしょう。

小豆のタネを繋いで6年目になります。1～3年目に比べて去年今年は生育が安定し、収量も増えてきました。味も良くなってきたように感じます。やはり年々秋保の風土にタネの性質が合ってきたのだと思います。

今年の参加者の皆さんは、猛暑との戦いでした。暑い中での草取りと土寄せ作業、皆さん本当に一生懸命に取り組んだ甲斐があつて、なんとかタネ分プラス数キロの収穫がありました。私が今回採れた小豆(タネ)は猛暑やウィルスに負けずに生き抜いたタネです。来年はもっと強い小豆になります！と言ったら、皆さん凄く嬉しそうな顔をして

いたのが印象的でした。来年の参加者にこの強くなったタネを引き継いでもらうのが楽しみです。

(秋保ゆきの会 渡辺重貴さん)



手作業で豆を鞘から外します



10/28
バケツ稲選手権・脱穀

過去最多の26家族が登録した今年のバケツ稲。最後の会には9家族が集まり、脱穀、粳の計量と精米までを行いました。

今年の猛暑の影響で田んぼでは乳白米が多発しましたが、バケツ稲には少なく、生産者の菅原さんから「素晴らしい！」とのコメントをいただきました。生育途中でバケツの水を切らしてしまったり、収穫目前の稲穂をスズメに狙われたり・・・気が抜けないだけに学べることもたくさんあるバケツ稲、一度はお試しく下さい！
参加者の皆さま、1シーズンお疲れさまでした♪

産地より

稲の生育期間中、グループLINEを通して皆さんから寄せられる質問に答えるのが実はすごく緊張しました。僕の答えは、間違ったり正解だったりしていると思います。が、「ここの話、皆さんからの結果報告を聞いて自分も勉強させてもらってます（笑）。田んぼよりさらに厳しい環境下で、稲1〜3株にお米が実るように考えます。農家になると中々1株ずつの事を考える事が減ってしまう中で、バケツ稲を通して稲の生育の基本を学ばせてもらっています。そんな中で、できたバケツの中のお米は可愛いもの（つて（笑）。組合員さん達も、茎を丁寧に数えたり、落ちた穂を勿体ないと言って拾ったりと、食べ物や生き物を大切にしているのが見てとれます。バケツ稲選手権は僕にとって楽しくも大切なイベントです。
(はさま自然村 菅原達徳さん)

11/4
大郷無農薬交流田 脱穀

あいコープの農産体験は、年間を通して行うことも魅力です。小さな苗を植えて、育て、刈り取った稲の束。それをハーベスターで脱穀してライスセンターで粳摺りする・・・いわば「小さな植物」を「皆さんの食べ物」に変える一連の仕事を体験できるのです。

雨が降る前に脱穀を終えようと、大人も子どもも協力して稲を運びました。脱穀を終えた稲に残った粳を少しでも無駄にしない、と、拾い集めました。
ライスセンターに移動し、玄米になった米を我先にと見に行く子どもたちの姿も印象的でした。

産地より

大郷の交流田は、今冬から冬水田んぼに挑戦しよう、と、田植えまでのスケジュールを例年と少し変えて行いました。冬に農産研修会で学んだ知識を活かし、代かきや田植えのタイミングを遅くしたりして雑草対策を行った結果、雑草の量が少なくなり、いつもより多めに収穫することができました。
また、今年の酷暑により、交流田の作業を行うにも、お互いに体調に充分に気をつけなければなりませんでしたが、なんとか乗り切ることができ、ホッとしております。冬水田んぼに向けて、生き物調査の手伝いをしてくれた大学生を含め、参加していただいた組合員家族の皆様、本当にお疲れ様でした！シーズン以外でも、いつでも田んぼの様子を見に遊びにきてください！
(大郷みどり会 西塚忠樹さん)



分けつした茎の数を数えます



ようやくお米になりました！！



表彰式の様子。
たくさん収穫できたね！



稲を干していた田んぼで脱穀



脱穀した米をトラックに積んで



粳摺り機を見学



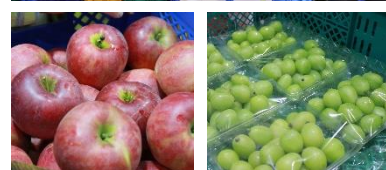
4時間の開催で約1,000名が参加



米と野菜の3産地(大郷・七郷・迫)



天童果実同好会



王隠堂農園



芳賀 裕(原木椎茸)



秋保ゆうきの会



生産者が並べた自慢の商品。「食べてみて!」と差し出されたものを味わい「おいしい!」と感想を伝える参加者。あちこちのブースで「あいコープの仲間同士」のあたたかな会話が繰り広げられました。いつも配達に来てくれる職員と、外で会う不思議な気持ちもまた、お祭りならではの。



わはわ田尻



パン工房わはわ



あいコープふくしま



丸和油脂



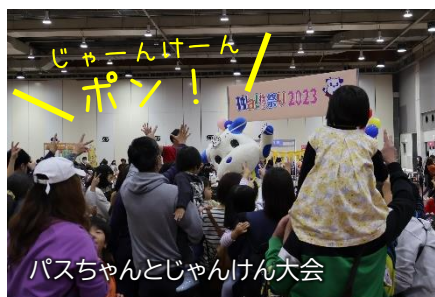
あいコープふくしまも豆腐クリームの実演、試食で出展。PB マヨネーズの丸和油脂ブースでは、子どもたちが油と酢をシェイクして卵黄の力で混ぜる「乳化」の実験を行いました。実演、体験を通して、材料、原料や食べ方の学びを深める機会にもなりました。



Wa!わ祭り2023

おいしい!うれしい! 1000の出会いがありました

10月21日(土)、入場制限なし、飲食とお買い物ありのWa!わ祭りが卸町サンフェスタで開催され、約1000人が参加しました。4年ぶりの大規模開催、マスクなしの笑顔で交流する組合員、生産者、職員たち。——やっぱり生協はこうでなくっちゃ!!



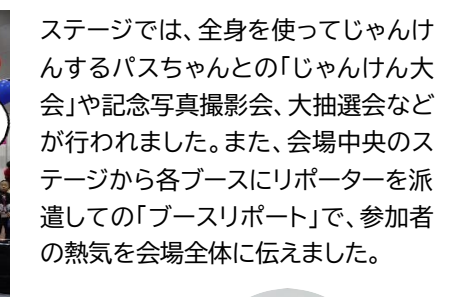
バスちゃんじゃけん大会



大抽選会



バスちゃんと記念撮影会



ステージでは、全身を使ってじゃけんするバスちゃんとの「じゃけん大会」や記念写真撮影会、大抽選会などが行われました。また、会場中央のステージから各ブースにリポーターを派遣しての「ブースレポート」で、参加者の熱気を会場全体に伝えました。



おいしそうな試食が出てます!これは何なのか聞いてみましょう

グリーンネットワーク 長谷部さん



ブースレポート

あいコープのやき 鈴木理事

えっ残りわずか? みなさん急いで食べに行って〜!



新米亭(ごはん販売)



ガス釜で炊いた新米(ササニシキ・コシヒカリ・ヒトメボレ)を販売した「新米亭」。会場内での売り歩きも行われました。



鎌田醤油



米沢郷牧場



杜の麺工房 菅野食品



高橋徳治商店



丸友しまか

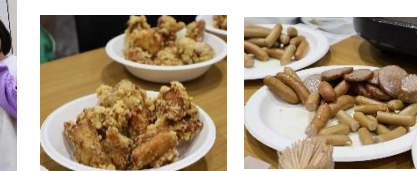
水産ブースでは養殖魚に関するシールアンケートを実施。組合員の養殖魚に対するイメージは? 水産生産者も興味津々でした。



丹野商店



各ブースには生産者と一緒に職員や理事、地区委員がスタッフとして活躍! 目玉焼き、唐揚げ、味噌汁にウインナー。美味しいものがあちこちに! どこから行こうか迷います。



菅野食品(豆腐)



趙さんの味



花見園



タンボロ村



奥羽乳業



まるご食品



リアスの坂詰さん



天童の寺岡さん



実行委員長 太田代 一世理事

「来場ありがとうございました」

11/8 GMOフリーゾーン運動全国集会 プレイベントに印鑰智哉氏が登壇

「印鑰智哉さんにきこう! タネから考える、私たちの食の未来」と題したオンライン学習会が開催されました。気候変動・社会問題など多重危機の原因の一つである工業型農業や、GM・ゲノム編集作物、放射線育種…枚挙に暇がない問題の数々に気持ちが沈みます。更にタネは企業による独占、海外への依存がすでに9割なのに、日本は無対策で食糧危機はもう目前? 国際取引が止まれば2年以内に7000万人の日本人が餓死…? しかしタネさえ守ればGMやゲノム編集の心配のない食料を得続けられるのです。まだ遅くはないはずです。無関心をやめて、身近な友人知人と「タネを守り安全な食料を」と諦めず声がけし、行政や政治家を動かさなくてはなりません。私達のタネまき行動が未来に花咲くことを願い、活動を続けようと思えました。

理事 辻 朗子



GMOフリーゾーン運動 遺伝子組み換え作物に反対する運動です

あいコープ職員の「コアサイクル活動」中間発表!

あいコープの核(コア)となる商品の生産現場や生産者を知り、それを組合員に伝えられる職員を育成するため行われているのが「コアサイクル活動」です。職員が数名でチームを作り、年間通してPB商品や農産品などについて学んだことを報告、発表し合い、切磋琢磨しています。壁新聞形式で行われる報告は、職員同士や理事らによって評価、投票され、中間発表では「コア天童チーム」が1位を獲得しました。2位はコア高橋徳治商店、3位はコアながめやま牧場となっています。配送時にぜひ、学びを得て成長した職員の皆さんの商品に関するお話をお聞きください。

理事 鈴木 真奈美



「コア天童」泉エリア職員 動画も作り学びを伝えた

おだいの たねまき



魚プロ認証 新たに3品

9月28日、魚食プロジェクトが新たに認証マークを付けるかどうかを判定する、3商品の試食会を行いました。候補の商品を、仕様ができるだけ似ている市販品と比較するのですが、それは優劣を決めるためではなく、商品名を伏せて双方を食べ比べることで、好みや美味しさを比較、点数化するために行います。職員と組合員合わせて10名により公平に評価されます。試食した結果、参加者それぞれからの好みが分かれた感想も少数ありましたが、ほとんどが美味しいと高評価をつけ、規定の合格点34点を大きく上回り、晴れて3商品は認証されました。

私は市販品よりも調味料を厳選し、添加されるものも極力少なくしてこの美味しさに仕上げているあいこープ商品の底力を感じました。生産者さんの努力の賜物であろう味をじっくり比較しながら味わいました。組合員の皆さんにもその舌で味わって頂きたい！新しく魚プロ認証マークをつけた3商品をぜひお試しください。

理事 佐藤 有子



認証試食会の様子

参加者感想

試食しながら皆で感想をワイワイ話すスタイルかと想像しましたが、格付けチェックの番組みたいに、それぞれ真剣に試食しながら感想をメモするのにちよつと緊張しました。違いがすぐわかるものもあれば、噛めば噛むほどわからなくなるものも。でも当てるクイズではなく、純粋に「美味しい」「イマイチ」と感じた事を伝えればいいとわかり、ホッとしました。あいこープの商品は自然な味付けで優しい美味しさ。市販品との違いが分かって良かったです。

泉B地区委員 吉田さん

真ほっけふっくら酒汐干し
(間宮商店)



丸友しまかの
揚げかまぼこ
(丸友しまか)

銀だら西京漬け
(水野食品)

連載
第7回

天童りんごオーナー日記

ネオニコチノイド系農薬不使用でのりんごづくりに組合員が参加し始めて半年以上が経ちました。花の蕾から見てきたりんごが赤く色づく様に感激もひとしおです。

10月25日は収穫前の最後の作業、着色管理でした。「玉回し」と呼ばれる、りんごを回転させる作業を行いました。日光が当たっていた面は赤くなっている、当たらなかった面は青い(黄色い?)まんま。それをくるりと回転させて両面色づくようにしてあげるのです。触つたらりんごを落としてしまいそう...でも意外とりんごの軸は強いのだそうで、くるくると手際よく作業を進め、あつという間にオーナーの木の作業は終わってしましました。しかし、生産者さんはこれを広大な園地で毎日やるのです。全体が赤く色づいたりんごの秘密を知りました。

さあ、残すは収穫。どのくらい収穫できるか、オーナーみんなワクワク！

担当理事 鈴木 真奈美



色づいたりんごを
ひっくり返す玉回し

組織概要

(2023年10月分)

【組合員数】	16,792名
【供給高】	249,797千円
【一人実利用高】	5,882/週
【出資金】	1,369,392千円

▼せっけん工房わ・は・わ建設に係るジョイケア基金からの支出について承認した▼Wa!わあ祭り2023の振り返りを行った▼シャボン玉フォーラムみやぎの決算報告を承認した▼地域ボランティア補助金について承認した▼脱原発エネシフ委員会主催「鍋布団の会」企画を承認した▼パレスチナ・ガザ地区、ヨルダン川西岸地区救援カンパ活動を承認した▼あいあいあい紙面構成編集案と新連載企画を承認した。

理事会議事録抄

2023年 11月7日
(火)

ちよつと
ひとこと

❶ Wa! わあ祭り、行ってみたくても毎回予定が合わず参加することができませんでした。お祭り玉手箱で少しでも参加の気分を味わえて嬉しい企画でした！クラフトオリジナル糖きびブラウン美味しかったです。(お祭り玉手箱当選者)

届け！93%の原発反対の声

原発再稼働に関するアンケート結果を東北電力へ

今年の夏、脱原発エネルギーシフト委員会では女川原発再稼働についてのアンケート調査を行いました。結果はあいあいあい10月号に掲載した通り、776件の回答のうち実に93%の方が再稼働に反対であるというものでした。

この私たちの思いを、再稼働を進める電力会社にも知ってもらわなくてはいいないと、高橋千佳理事長と委員会メンバー3名で、仙台市青葉区の東北電力本店へ行き、アンケート結果と再稼働中止を求める要望書をお渡ししました。

「福島事故から学んでいないのか」「核のゴミはどうするか。未来に負の遺産を残したくない」等々、皆さんがアンケートに書き綴ってくれた思いのこもったコメントも全て印刷してお



東北電力本店（仙台市青葉区）で再稼働中止の要望書を提出

脱原発エネルギーシフト委員会
担当理事 櫻井 洋子

渡しし、参加者一人一人がそれぞれの言葉で「原発はもうやめて欲しい」と訴えてきました。

当日対応してくださった社員の方々からは「確かに受け取りました。社内でも共有します。」との言葉をいただくのみでしたが、市民の不安や恐怖、心配の率直な声を伝えることが、きつと大きな組織をも動かすと思いたいと思います。



私のオススメ商品



私のおすすめは「こだわりの万能つゆ」です。ゆでたてのパスタに納豆と万能つゆを絡める和風パスタはお手軽で素早くできるので、気に入っています。また、以前のまんま通信表紙で紹介されたレシピですが、一口大に切ったキュウリやナス、人参などを素揚げして、万能つゆと水1:1にしばらく漬けてから食べる「どっぽん漬け」も簡単にできるのでよく自分で作っています。

組織運営室 豊嶋馨

編集後記

今月号8pで紹介したパレスチナオリブオイル生産者との交流会の企画を準備していた時は思いもしなかった10月7日の武力衝突により、来仙予定だった生産者は帰国できなくなる恐れがあつて急遽離日。顔を合わせた交流はかきませんでした。「想像もしていなかった事」を恥じつつ、私の古くからの友人の呼びかけで参加している即時停戦を求める毎週末のスタンディングのチャントには、次のような一節があります。Peace and justice, that's the goal!

組織運営室 豊嶋馨

委員さん募集中！

あいコープの仲間と
食のこと
環境のこと
一緒に話しませんか？

お問い合わせ先
☎0120-255-044
Fax 0120-849-324
Email soshiki@mamma.coop
(担当：組織運営室長 豊嶋)



ジョイケア NEWS

ジョイケアシステムは、あいコープみやぎ独自の地域福祉政策で、組合員全員の拠出金(100円/月)によって成り立っている助け合いの仕組みです。社会福祉法人「みんなの輪」、NPO法人「お茶っこケア」、ビッグイシューへの支援など、地域福祉にも役立てられています。個人で利用できるサービス(ささえあい/たすけあい/集団託児/慶弔・出産/電話相談)もあり、組合員同士の助け合いやケアメイトによる集団託児なども多く利用されています。

ジョイケア利用状況 (2023年10月分)

ささえあい(保障)	0件	◆集団託児	
たすけあい(ケア)	19件	利用延べ人数	6名
集団託児	4件	◆ケア時間	
慶弔・出産	9件		47.5時間
電話相談窓口	5件		
計	37件		

組合員が利用できる電話相談

お申込み・お問合せは
ジョイケア事務局へ



0120-50-7277 平日 9:00~17:00

年金相談・1/16(火) 社会保険労務士 清野道子氏
13:30~15:30

法律相談・1/17(水)、1/23(水) 弁護士 倉林千枝子氏
13:30~15:30

子ども相談・1/16(火) 宮城教育大学教授 菅井裕行氏
10:00~12:00

*介護相談と傾聴は相談日のご希望を伺います。

介護相談 (ケアプラザセンター木更 山崎彰子氏)

傾聴 (NPO法人仙台傾聴の会 森山英子氏)

▼随時受付可能です。各相談窓口前週の金曜日までに予約して下さい。▼金曜日が祝日の場合は直前の平日の受付時間まで受付します。▼予約して頂いた方には、相談日に相談員からお電話を差し上げます。



●子どもの体験、食育にとっても良かった。私自身も田植え稲刈りを初めて経験し楽しかった。生き物調査や産地見学など長い期間で飽きることなく子どもも参加できたと思います。(七郷トライ田んぼ参加者アンケートより)

『私たちの涙』

パレスチナ・フェアトレードオリーブオイル

バランゴンバナナやエコシュリンプなどのフェアトレード商品でおなじみの、株式会社オルター・トレード・ジャパン(以下 ATJ)。その商品の一つに“パレスチナのオリーブオイル”があります。広報委員会では、10月初旬に現地の生産者とATJ職員が来仙するチャンスをとらえ、委員限定学習会を企画しました。



ファッドさんからのビデオメッセージを
黒岩さんが翻訳してくれました

自分の畑に行く機会すら年数回に制限され、樹を倒されるなど農地や施設への攻撃は日常。それでも、使用していない土地とみなされると、不条理な法律により大切な農地をイスラエルに没収されてしまうため、危険を顧みず農地に通り生産を続けているそうです。そんなパレスチナの生産者を守るため設立されたUAWCでは、土地開発や、女性の労働支援、

会場のエルパーク仙台に集った参加者は22名。残念ながら10/7からのパレスチナの非常事態を受けて、生産者支援団体UAWC(パレスチナ農業開発センター)のファッド・アブセイフさんは急きょ帰国し対面は叶いませんでしたが、私たちへビデオメッセージを寄せてくださいました。

『パレスチナ問題』は19世紀末から続く根深い問題。パレスチナオリーブの生産者は、今回の紛争勃発以前から長い間困難にさらされてきました。



「パレスチナ エキストラバージン
オリーブオイル」をみんなで試食

環境保護や農民の収入創出まで様々なプログラムを取り入れ、オリーブの生産を支援していることを、ファッドさんのメッセージと黒岩さんの解説で学びました。

私たちが商品を利用することで生産者の生活を守り、活力になるかもしれません。オリーブオイルは「私たちの涙」というパレスチナの人々の言葉が胸に迫りました。



株式会社 オルター・トレード・ジャパン
黒岩竜太さん

オルター・トレード・ジャパン(ATJ)は、民衆交易を通じて海外生産者の自立に共に取り組むことを目指す商社です。パレスチナでは紀元前4000年頃にはオリーブが栽培され、今も人々の生活に深く根付いています。隣国イスラエルの占領下、農地や水資源を奪われている農民の暮らしを守るため、パレスチナの人々と連帯し平和を考える取り組みとして2004年よりオリーブオイルを輸入しています。

10月7日に始まったハマスとイスラエル軍の武力衝突により、特にパレスチナ・ガザ地区では多くの死者・負傷者が出ています。現地パートナーであるパレスチナ農業開発センター(UAWC)はガザ地区を中心に食料や水、生活必需品などの緊急支援を11月中旬から開始しており、ATJもその活動の支援を行っています。



ATJ 黒岩さんを囲んで

1/25
木

脱原発エネルギーシフト委員会主催
鍋布団作りの会

場所/あいコープミートセンター キッチンスタジオ
時間/10:00~13:00 参加費/1500円

1/26
金

石けん環境委員会主催
BM 活性水学習会

場所/あいコープ日の出町センター大会議室
オンラインあり
時間/10:00~12:00 参加費/無料

女川原発が止まってから

4652 日目

(2023年12月4日現在)



パレスチナ・ガザ地区、ヨルダン川西岸地区

人道支援カンパを受付中です

現在、ATJ 社主催の救援カンパを受付しております。募金は全額“あいコープ自然災害基金”からATJ社を通してUAWCおよびアルリーフ社(パレスチナ農業復興委員会PARCのフェアトレード事業会社)へ寄付し現地支援に役立てられます。

詳細は11月4回配布のチラシをご覧ください。

《受付期間》 11月4回~12月2回注文書

- ・000842 パレスチナ救援カンパ 1口500円
- ・000843 パレスチナ救援カンパ 1口1000円
- ・222842 同上【ポイント振替】 1口500Pt
- ・222843 同上【ポイント振替】 1口1000Pt